



— 第52回 —

# ゲートボール 見事！国体優勝

十和田市ゲートボール協会会長  
ゲートボール競技青森県国体代表選手  
青森県ゲートボール協会事務局次長

えびな けいいち  
**蛸名 啓一**さん

## MEMO

ゲートボールは、先行チームが奇数の打順、後攻チームは偶数の打順で、1番から10番まで順番に自分の番号のボールを打ち、交互に進めていきます。スタートエリアから1番ゲート通過で1点、2番ゲートで1点、3番ゲートで1点を加え、最後にゴールボールに当てると「上がり」で2点となり、5点でパーフェクト。勝敗は総合点で決まります。青森県代表チームは決勝戦でパーフェクトを出し全国一となりました。



ゲートボールは1947年、北海道芽室町で発祥し、今では世界各地へと広がり、アジア地域を中心に50を超える国で楽しまれています。競技は5人対5人のチーム対抗戦で1試合30分間で行われます。試合は「ゲート通過」や「上がり」を単に競い合うのではなく、1打ごとに変化するボールの配置を読み、チームプレーによるボールの連携が勝敗を決める戦略型のスポーツです。

9月17、18日の両日、岩手県花巻市で開催された「第71回国民体育大会ゲートボール競技会（公開競技）」の男子の部で、青森県代表チームが見事に優勝を果たしました。監督は県協会会長で青森市在住の久米田雄二さん（75）。選手は市内の十和田西チームに所属する蛸名啓一さん（59）、市沢賢三さん（71）、小笠原民雄さん（66）、東亮太さん（22）のほか、弘前市在住の清藤隆厚さん（24）の5人で挑みました。その試合の様子は蛸名さんが次のように説明します。

「青森県チームは予選リーグを三重県と福岡県に2勝、長野県に1敗して通過しました。決勝トーナメントでは、山口県を21対9、埼玉県を14対7で破り決勝に進出。決勝では強豪の新潟県を25対6のパーフェクトゲームで下し優勝しました」

高齢者が多いと思われがちなゲ-



国体優勝をVサインで祝う青森県代表チーム。（左から）蛸名さん、小笠原さん、東さん、市沢さん、清藤さん、久米田監督

トボールは、全国大会の強豪チームには意外と若い人が多いといいます。「ゲートボールは年齢は関係ありません。子どもから大人まで幅広く気軽に競技できます。ゲームの魅力は頭脳と技を使うことです。部活に励む中高生はもとより、多くの若い人もゲートボール競技に触れてもらいたいです」と蛸名さん。

ゲートボールは、世代間の交流、親子のコミュニケーションづくりに最適なスポーツ。

「テニスコートなど平らな場所であればどこでもできますし、指揮命令系統の職場の自衛隊や警察学校でも、戦略学習にゲートボールを取り入れているといいます。高齢者は認知症防止に、そして医療費抑制につながりますし、若い人は、さらに頭の回転が良くなるので、どんどん参加してもらいたい」と笑顔で話しました。